

DeSCヘルスケアの参画する弘前大学COI-NEXTが 第一回中間評価報告書において最高評価「S」を獲得

株式会社ディー・エヌ・エーのヘルスケア事業の中核を担う株式会社データホライゾン（本社：広島県広島市、代表取締役社長兼CEO：瀬川翔）の子会社、DeSCヘルスケア株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：瀬川翔、以下DeSCヘルスケア）は、DeSCヘルスケアが参画し、瀬川が副プロジェクトリーダーを務める弘前大学COI-NEXTが、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下JST）による第一回中間評価報告書において最高評価である「S」を獲得したことをお知らせします。

本報告書において「岩木健診の着実な実施やQOL健診の拡大をはじめ、健康ビッグデータを中核としたヘルスケアデータ活用の基盤構築およびセルフモニタリング式QOL健診プログラムの開発、データサイエンスの推進等、多岐にわたって取組が大きく進展した」と評価されています。（詳細は[JSTのHP](#)に掲載の本報告書を参照ください）

■弘前大学COI-NEXTとは

文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の拠点の1つとして弘前大学が代表機関を務める弘前大学健康未来イノベーション研究機構が推進しているプロジェクト。弘前市・青森県・東京大学ほか全国の大学、国研、企業等が参画し、「健康を基軸に地域経済を発展させ、高QOLの健康寿命を延伸するWell-beingな地域社会モデル」実現を目指している。（詳細は[COI-NEXTのHP](#)を参照ください）

■DeSCヘルスケアの取り組み

DeSCヘルスケアは、2023年11月20日より、弘前市在住の19歳以上の方を対象に「楽しみながら、健康に。」を実現するヘルスケアエンターテインメントアプリ「kencom®」を提供し、健康増進の支援に取り組んできました。本事業では、kencom®の機能も活用しながら、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防・改善を目的とし、「メタボ該当者・予備群の割合3ポイント減」や「健康プログラム前後の歩数が1日当たり300歩以上増加」などの成果指標の達成を目指し、住民の健康寿命の延伸と医療費の適正化に取り組んでいます。

今後もDeSCヘルスケアは、健康・医療分野におけるリアルワールドデータを活用した研究を支援し、エビデンス創出を促進することで生活者の健康寿命の延伸と医療費適正化の課題解決に貢献してまいります。